

東日本大震災から5年。 育成財団の復興支援を振り返る。

各地に大きな被害をもたらした東日本大震災から5年が経過しました。育成財団では、発災直後から、支援プロジェクトを立ち上げ、活動してきました。この5年間の取り組みを振り返ります。

活動の変遷

2011年3月11日の発災直後からの活動の変遷をまとめます。

活動① 情報収集

未曾有の災害でしたが、各県児連等と連携しながら、被害状況をまとめました。4月7日からは、岩手・宮城県への調査に入りました。その時の「このままじゃ、この街から児童館が無くなってしまふんです」（釜石市の児童館職員）という一言が、私どもの子どもを支援する人を支える」という活動方針につながりました。

活動② 活動支援金

3月15日に、「児童館活動支援募金」

口座を公開しました。新潟県中越地震以来の支援金の募金活動となりました。

活動③ 場の再開支援

被災児童館からの要請に応じて、物資（電化製品、消耗品等）手配、寄贈品の仲介。

活動④ 遊びを届ける

岩手県児連といわて子どもの森が沿岸被災地で行う「いわて子ども遊び隊」への初動金・車輛提供や、北海道の移動児童館車輛「ばんぷきん号」の派遣支援。これらには札幌市児童会館職員が継続して現地入りし、今もその活動が続いています。

本誌2011年夏・秋号でここまで経過を詳細に報告しています。



活動⑤ 人と物をつなぐ

2011年9月に1カ月間、被災地へ関西・東京の児童館職員をリレー^{*}で派遣し、ニーズ調査や子どもたちへの遊び支援を実施。行けないけど応援し

たい児童館からは工作キットを託しました。

活動⑥ 場を作る・取り戻す

ポイントカードを提示して児童館を建設するプロジェクト（2館）への支援、マニユライフ生命保険株式会社への寄付による仮設児童館建設（総額約4千3百万円）を実施しました。仮設2館のうち、荒浜児童館（宮城県）は2015年度から本施設へ移行完了。鶴住居児童館（岩手県）は2017年度に移行予定。

活動⑦ 児童館・児童クラブ×NPO

日産プレジデント基金^{*2}あそびプラスOneプログラムは、日本NPOセンターと開発した、児童館へ専門性を持ったNPOを派遣する、プログラム。押しかける活動ではなく、あくまでも現場が「選ぶ」ことにこだわるコーディネートを行いました。計285か所の施設へ派遣し、合わせて支援金約1千万円を送金しました。

活動⑧ 伝える

被災地の子どもたちは、実はとても強くてたくましかった。その笑顔を見ながら、東北を考えてもらいたいと思

い、瓦礫が1枚も載っていない写真集『僕は今を生きている』（笑顔写真家 かとうゆういち氏）を2012年4月に発行しました。

活動⑨ したいことを実現する

支援金の配分は総額約1千6百万円となり、73か所の児童館で事業が展開されました。イベント、保養、機材購入、避難解除地域への帰還支援など多様な活動を応援することができました。

活動⑩ 支援者ケア

福島と岩手・宮城にわかれて、児童館・児童クラブ職員の保養と学びのミーティングを開催。ネットワーク作りにもなりました。

活動⑪ 子どもと職員のエンパワメント

「じどうかんジャンボリーふくしま」を2回支援。福島の児童館職員と子どもたちが創り上げる企画を応援しました。

活動⑫ 被災地内外をつなぎ、新たなものを生み出す

全国児童厚生員研究協議会や運動遊び研究グループとのアウトリーチプログラムや遊びの出前イベントなどを通してこ

の5年で豊かなネットワークが生まれました。

なお、5年間にお寄せ頂いた浄財は表の通りです。

紙幅の都合により、全ての活動を紹介することが叶いませんでしたが、当財団ホームページで公開しております。現地の状況や復興フェイズに合わせながら作ってきた私どもの活動は、全国の児童館・児童クラブをはじめ、企業、NPO、中間支援組織、ボランティアの方々に支えられたものでした。ここに御礼申し上げます。

支援募金(寄付金)	24,015,579 円
助成金・委託金	61,882,939 円
その他(写真集)	1,842,898 円
合計	87,741,416 円

今後の課題

5年間でさまざまな活動を展開していききましたが、課題も感じています。

①遊びの価値を広げることができたか
：災害時にも遊びに力があることは間違いないのですが、児童館で展開する

ことの意義を伝えきれたのか。これは平時でも課題ではあります。

②中学・高校生世代へのアプローチができたか：東北の児童館では残念ながらほとんどできていませんでした。

③広域に避難された子ども・家庭支援：年々その課題は見えにくくなっています。

また、次の大規模災害を見越しての支援体制づくりも大きな課題です。

私どもは震災から5年の節目を迎えて、集中的な復興支援の取り組みを終了することとしました。とはいえ、まだまだ東北の復興には時間がかかると思っています。通常活動の中で、これからも応援していきます。皆様におかれまして「東北を忘れない」でいただけたら幸いです。



*1 <http://www.jidoukan.or.jp/blog/2011/09/>

*2 <http://nissan-president-fund.jp/>